

新学習指導要領実施に関する実態調査 記述〔中学校〕

1 授業時数増加には、どのように対処していますか。「⑦その他」の内容

<授業時数確保の具体例>

- ・会議等のカットで対処。
- ・月曜日の 6 校時まで授業を組んでいる。
- ・予備時数をあてる。
- ・昨年までは定期テスト後に下校だったものが、今年から 5 校時まで授業となった。
- ・テストの 3 日目だけでなく、1・2 日目も午後授業をするようになった。
- ・学校行事を教科でカウントするように変更になった。
- ・行事の精選。

<モジュール学習>

- ・朝 5 分、放課後 5 分 週計 45 分で 1 時間分を生み出している。
- ・朝自習時間を $10 \text{ 分} \times 5 \text{ 日} = 50 \text{ 分}$ (1 時間) にカウントしていく予定である。
- ・選択教科の中に授業内容を入れ込む。

<変更なし等>

- ・現在まで変更なし。
- ・増加はとくになし。
- ・まだ検討中である。
- ・来年度からなので、「学校行事の精選、見直し」「始業式・終業式に授業を実施」「総合的な学習の時間や選択教科の削減」という方向で検討中。

2 授業時数の増加により、学校現場でどのような影響がありますか。「⑥その他」の内容

<子どもたちへの影響>

- ・来年度から完全実施なので、まだよく読めてない所もあるが、本年度は月曜日を月 1~2 回 6 校時までやっている。その時の子どもの様子は③ (子どもの学習に対する集中力、意欲が持続しない) で、教職員も同じだ。
- ・子どもたちにゆとりを持たせる活動が減った。また、教職員にもゆとりがなくなった。(始業式、終業式、定期テスト後の授業)
- ・子どもたちのクラスマッチが 2 回実施していたのが 1 回に減らされた。
- ・授業時数増で増えた教科は五教科と体育。子どもたちは 5 教科の日が続くことで心身ともに疲れているようである。当然、宿題も増える。音楽・美術・技術家庭といった感覚を育む教科の削減が生徒の発達にどのような影響を与えることになるのか、今後一抹の不安を覚える。

教職員の人数も増やさなければ教材研究が全くできないまま授業をしなければならなくなるのではないかと思う。

<教職員の多忙化>

- ・職員の多忙化で様々な事例について共通理解が図れない。
- ・少人数や T・T で教員が増えているが、かなり時数が多い。(数学・英語)
- ・定期テスト後に授業を実施するため、採点業務の時間確保が難しくなってきている。
- ・授業時数(教科)の増加+総合的な学習の時間で、これまで以上に多忙になっている。
- ・週時数が多くなり、月、金に研修、会議がもてなくなってきて、全体的に余裕がなくなっている。

- ・授業時数等が増える中で、教職員や生徒への負担が大きくなる。
- ・授業時数の増加に伴い、多忙化やいろいろなことに対しての負担がかかってくると思う。行事の精選もあまり進まず、ますますきついスケジュールになっている。
- ・1週5日枠で時数が増加→教員数が不足、定数の見直しが必要。多忙化につながっている。
- ・中学校の場合、定期テスト後も授業を入れることもやむをえない。テスト採点、成績処理等、実質の事務仕事の時間がない。
- ・授業時数が増えているのに、行事を全く減らしていないために、かなり多忙化がすすむ。
- ・時数増は様々な面で影響を与える。
- ・行事など他のものが削れないので、ますます多忙になっている。(時間的にも心情的にも)
- ・行事の精選がなかなかすすまない。非常に多忙化が予想される。

<担当教科による時数のアンバランス・負担の問題>

- ・教科によって持ち時数のアンバランスが大きくなつた。
- ・教科により時数のアンバランス(多い、少ない)が生じる。
- ・特定教科の担当者の時数増に伴い、担任をすることが難しい。
- ・どの教科の教員がふえるかで、教科の持ち時数のアンバランスがかなり出てきて、一部の教員に負担がかかると予想される。
- ・教員の持ち時数の差が大きく、アンバランスになる。それに伴って担任がもてない教科が固定される。
- ・学級減による定数減により、一人あたりの授業担当時数の増加と格差の拡大がある。(5教科と4教科)
- ・授業時数の増加により、教員の授業の持ち時数のアンバランスが生じている。特に、数学、英語の場合、少人数やTTの指導の関係で持ち時間数が増えている。英語は(1年:4時間、2年:4時間、3年:4時間)で2人では無理。

<人事の面>

- ・教科が増えるため、校内人事で制限が出てくるかな?
- ・急減補正のため、期限付き職員が多い。非常勤の発令もある。
- ・今年度定数減で理科は非常勤、4月になりようやく決定したらしく、担当の方は他の学校との掛け持ちもあり、本校では理科は午後しか実施できない。子どもたちは時々しんどそうにしている。また、時間割係も時間割を作成(毎週、流動的)するのに苦労している。

<その他>

- ・現在のところ影響ない。
- ・特になし。
- ・変化は感じられない。担当者の苦労は見られない。(以前から担当時数に余裕がある)
- ・家庭訪問を夏休みに実施しようとしている。

5 教科指導についてどのような問題点がありますか。「⑥その他」の内容

- ・国語・社会には教材がないため、どこに問い合わせていいのか。理科・数学には移行期に伴う、教材が補充されている。
- ・移行に関わって補助教材が増え、扱いが煩わしい。
 - 国語→中2の文法(助詞・助動詞の補助教材)
 - 理科→教科書+補助教材
 - 数学→教科書+補助教材
- ・なし。

- ・特はない。
- ・中学校はまだ完全実施ではないため、実施の問題点については分からぬ。
- ・特に問題なし。むしろメリットの方が多いのではないか？
- ・完全実施でなく良くわからない。

6 武道を実施する上で、どのような課題があると思いますか。特記

<施設の問題>

- ・武道館まで歩いて10分ぐらいかかる。(場所が校外)
- ・武道場はないので、体育館で剣道をすることになると思うが、体育館の床板が平らでないため、素足での活動に危険を感じる。
- ・武道館が校内にない。
- ・そもそも武道館がないし、畳もない。
- ・施設が市・市民の使用する施設のため(管轄が市によって運営)，学校との内線ができない。緊急時の連絡に時間がかかる。

<道具・指導者の問題>

- ・柔道着を40着すべて学校の備品として購入しました。1シーズン着て洗って学校保管です。
- ・外部指導者をお願いしており、時間割を組むときにかなり配慮が必要。
- ・今の体育の方は剣道が専門だから、剣道をすることになるでしょう。
- ・神棚はちゃんとはずしてあった。柔道の選択者が少ないということで、柔道着を持っている人は柔道をとれ！ということになったようです。[鹿屋第一中(保護者として)]

<その他>

- ・男女の能力の差などへの対応。
- ・指導すべき内容に対して時間が短い。
- ・宗教上、武道を禁じられている生徒への対応。(ダンスなどに変更できれば)
- ・弓道部の顧問をしている。弓道連盟は授業への導入を期待しているようであるが、現実的には弓道は飛び道具を使うため、命にかかる危険があるので、導入は難しいと思う。もし導入しなければならないなら、柔道・剣道がよいと思う。

7 学習指導要領改訂にかかわる学校現場への影響をお書きください。

- ・総合的な学習の時間が減って、これまで取り組んだ内容ができなくなると、かなり影響があると思う。
- ・備品の補充が十分でない。職員の多忙化に拍車がかかっている。
- ・授業時数の確保、予備時数の確保にとらわれすぎて、子どもの意欲や忙しさに目がいかず、スケジュール消化だけが優先され、眞の教育からますます遠のいていきそうな気がする。人間同士のふれあいが大切なはずだが・・・。
- ・音楽の時数に変化はありませんでしたが、選択の時間がなくなった分、実質時数が減りました。小規模校なので他教科を持ち、特別支援学級を持ち、校務分掌も山のようにまわってきます。来年度はさらに・・・と考えると苦痛です。音楽を生徒ともに楽しみ、美しさを追求する～夢のような話です。
- ・現場が望む教科書選定がなされていない。学力の定着を図るために授業時数が増えるが、教育課程の内容は増やさないなど工夫して欲しい。
- ・教科書会社が変わり、教材も変わり、全学年の教材研究が必要だが、今の時点で新教科書は手元になく、いつ教材研究ができるのか。

- ・これまでの行事等の大幅な見直しをせざるを得なかった。期末テスト3日目の午後から授業するなど、生徒・教師共々ゆとりがなくなりつつある。
- ・時間割を組むのが、とても大変である。行事は減らないので、教材研究の時間確保が困難。
- ・教科時数が増えることで、子ども本来の活動（例えば生徒会活動など）が、少なくなり、学力に偏ることで、学校生活に潤いがなくなる。心が育たない。
- ・実技教科の時数がいくらか増えるのはよいと思うが、専門の担当が来ないので、免許外担当が増える。自分も免許外で美術を持っているが、子どもに力をつけられるのか不安である。定数を増やして欲しい。（現在、技術が非常勤、美術・家庭科が免外）
- ・現場の声がどれだけ採用されているか疑問。一部のトップの人たちの声だけで学校教育内容が左右されているように思う。
- ・数学、理科の授業時数が増え、今でも大変なのに、教員増が見込めるのか？子どもたちが楽しみにしている行事等も減らされるのではないかと思う。
- ・5教科と4教科の授業時数の差がますます広がり、職員間の負担のアンバランスが大きくなる。5教科が極端に多くなり、子どもたちが芸術・文化を学ぶ機会や体験活動をする時間が減ったが、これでよいのかと疑問が残っている。
- ・今のところよく見えない。
- ・教師は授業数が増えるが、子どもの学力向上も期待できる。私は良いと思います。